

高等学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

特 別 活 動

東京都教職員研修センター

平成15年度

教育研究員名簿(特別活動)

No.	地区	学 校 名	氏 名	備 考
1	4	都立池袋商業高等学校	田村実千	
2	6	都立第三商業高等学校	黒岩みどり	
3	6	都立墨田工業高等学校	伊藤邦治	
4	9	都立久留米高等学校	鈴木留美子	
5	9	都立東村山西高等学校	岡崎豊	世話人

(担当)東京都教職員研修センター 統括指導主事 出張 吉訓

## 目 次

はじめに	
1 研究のねらい	2
2 研究の背景と主題設定の理由	2
生徒の意識調査	
1 調査の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査の結果及び考察	3
4 「自己を生かす力」をはぐくむための指導の観点	5
実践事例	
事例1 ホームルーム活動 ～校内合唱コンクールを通しての取り組み～	6
事例2 生徒会活動 ～リーダー研修会を通しての生徒会活動の取り組み～	10
事例3 学校行事 ～状況報告書・企画書を用いて 主体的・計画的に文化祭に取り組む工夫～	14
事例4 学校行事 ～文化祭実行委員が中心となって運営する文化祭の活性化～	18
事例5 学校行事 ～団長を中心とした団活動をより活性化する指導の工夫～	21
まとめ	24

## 【研究主題】

主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の工夫

### I はじめに

#### 1 研究のねらい

学習指導要領第4章「特別活動」では、目標を次のように示している。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

この目標を受け、本研究では、生徒一人一人が自分で考え、判断して、主体的に集団活動を行うことが大切であると考えた。そこで、この主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の在り方について探ることにした。

具体的には、「自己を生かす力」を主体性、責任感、実践力、協調性やコミュニケーション能力ととらえ、それらを望ましい集団活動の様々な場面ではぐくむ必要があると考えた。

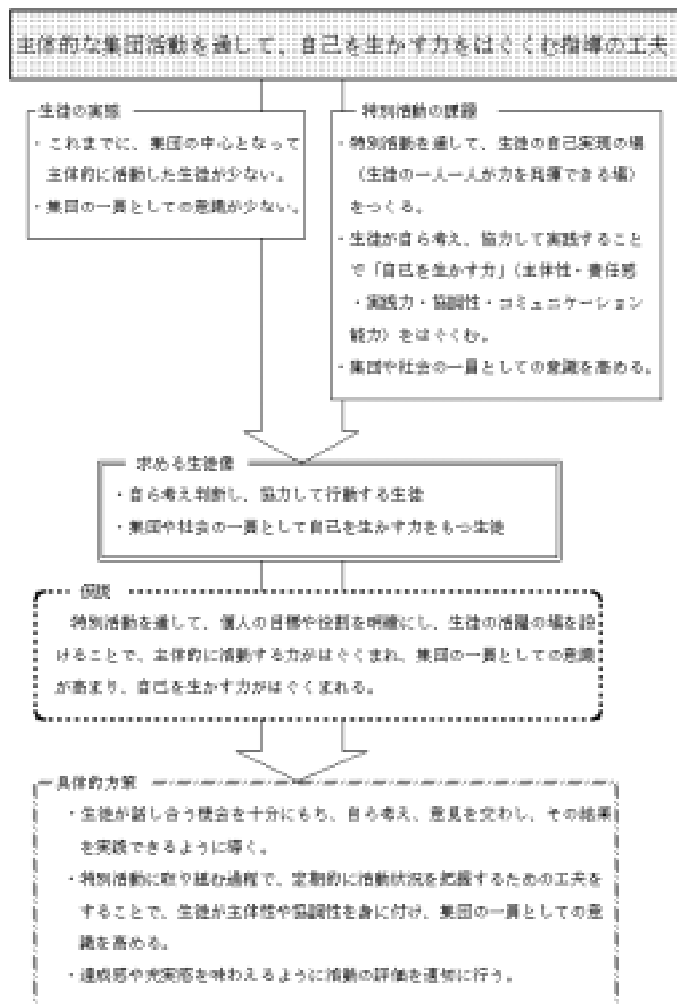
#### 2 研究の背景と主題設定の理由

今日、生活体験や社会体験の不足、人間関係や連帯感の希薄化、集団や社会の一員としての自覚や責任感の低下などが指摘されている。

一方、激しく変容する現代社会を主体的に生きていくためには、自ら学び、自ら考えて、判断したことを他者と協力して実践する力が必要とされている。

このような背景から、生徒一人一人に集団や社会の一員として、自己を生かす力としてとらえた主体性、責任感、実践力、協調性やコミュニケーション能力を伸長させたいと考えた。

そこで、本研究では、「特別活動を通して、個人の目標や役割を明確にし、生徒の活躍の場を設けることで、主体的に活躍する力がはぐくまれ、集団の一員としての意識が高まり、自己を生かす力がはぐくまれる。」という仮説を立て、上記の研究主題を設定した。



## 生徒の意識調査

### 1 調査の目的

本研究では、学校生活における生徒の意識と現状を把握するために、47項目のアンケートを実施した。

### 2 調査の対象

教育研究員の所属する5校（全日制課程の普通科高校2校、商業科高校2校、工業科高校1校）の生徒2,267名にアンケート調査を実施し、1,993名（回答率87.9%）の回答を得た。

### 3 調査の結果及び考察

#### (1) 充実しているときについて

学校生活の中で充実しているときについて調査を行ったところ、図1の結果が得られた。

生徒が「とても充実している」と感じているときは、「休み時間、昼休み、放課後」が39%、「部活動をしているとき」が43%である。

しかし、「授業を受けているとき」は5%、「生徒会活動（委員会など）をしているとき」が9%、「学校行事に参加しているとき」は26%である。

このことから、親しい友達や仲間内では充実しているが、それ以外の集団の中では十分な充実感を得られていないことがうかがえる。

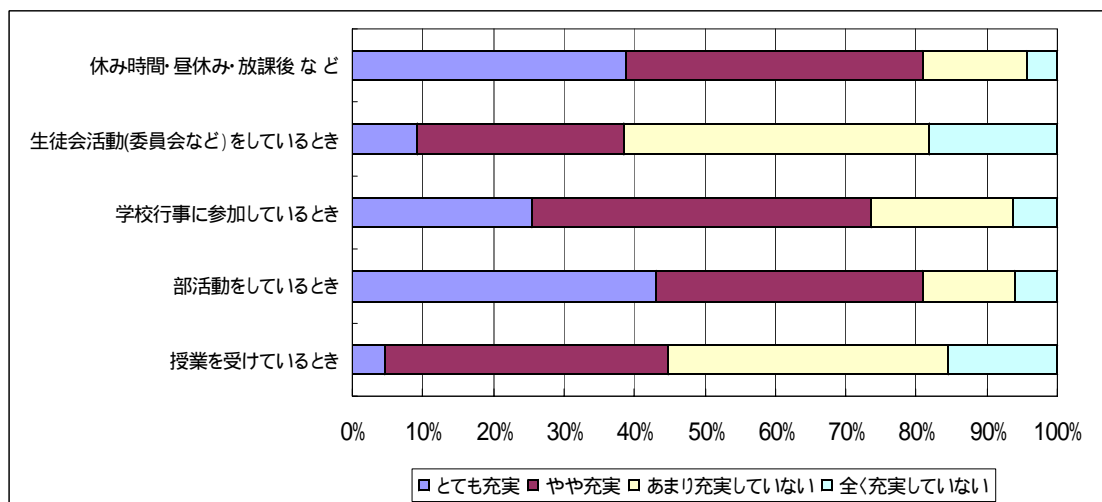


図1 あなたは、次のようなときに充実感がありますか。

#### (2) 学校行事について

次に、本調査を行った5校すべてが実施している体育祭及び文化祭と、2校で実施している合唱祭について複数回答による調査を行ったところ、図2から図4までの結果が得られた。

体育祭は65%、文化祭は73%、合唱祭は63%の生徒が「好き」と答えている。

その理由としては、体育祭・文化祭では「内容が楽しかったから」、合唱祭では「集団としてまとまったから」と答えている生徒が多かったが、「自分の力でできた」「自分の力を発揮することができた」と答えている生徒は少なかった。

また、(1)の結果から、学校行事に参加しているときに「とても充実している」と感じている生徒が26%に対して、「やや充実している」と感じている生徒は48%にのぼっている。

これらのことから、生徒は学校行事に参加することは好きであるが、主体性や実践力をもって活動しているとは言えないため、十分な充実感を得られていないことがうかがえる。そこで、このような生徒に対して、各自の目標や役割を明確にするとともに、個に応じた活躍の場を設けることで、充実感や主体性を養う必要がある。

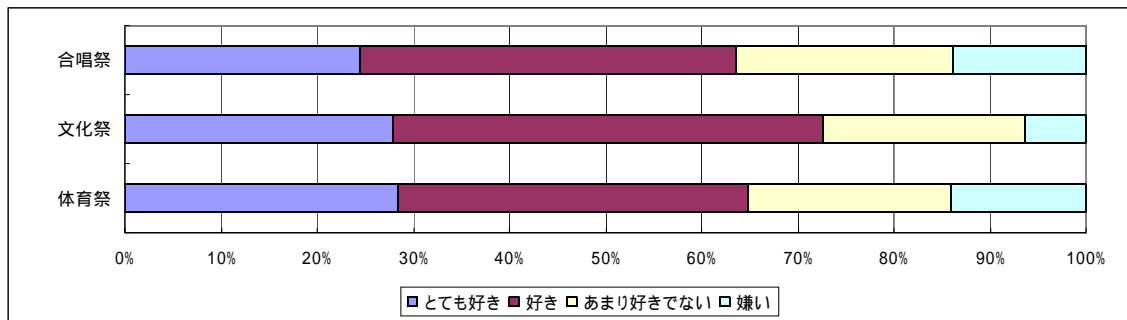


図2 次の学校行事は好きですか。

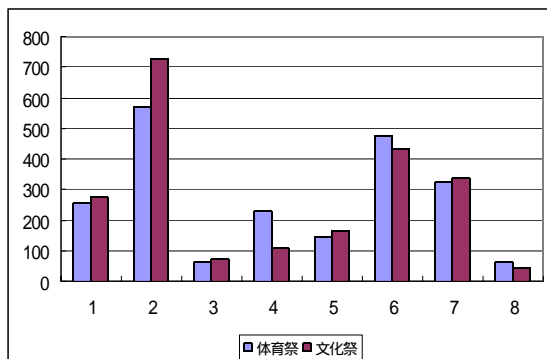


図3 体育祭・文化祭が好きな理由（複数回答）

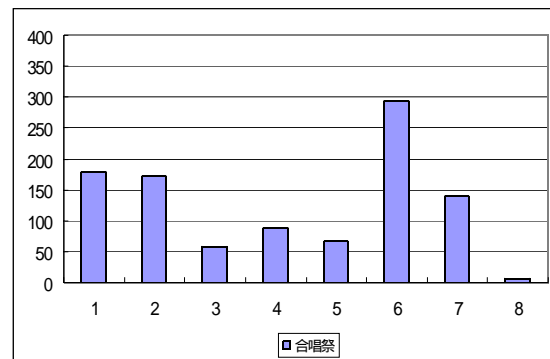


図4 合唱祭が好きな理由（複数回答）

注) 合唱祭は実施している2校での調査結果

- |              |                           |                           |
|--------------|---------------------------|---------------------------|
| 図3・4<br>の選択肢 | 1. 自分たちの力でできたから           | 2. 内容が楽しかったから             |
|              | 3. 自分が成長できたから             | 4. 自分の力を発揮することができたから      |
|              | 5. 自分の役割が果たせたから           | 6. 集団（ホーム・ム・団体）としてまとまったから |
|              | 7. 新しい友達ができたり友情が深まったりしたから | 8. その他                    |

### (3) 学校行事への取り組み方について

学校行事への取り組み方について調査を行ったところ、図5の結果が得られた。

58%の生徒が、学校行事に取り組む上で「話し合いが必要である」と答えているが、実際には「ホームルームで十分な話し合いをした」と答えた生徒が18%、「実行委員会

や係会などで十分な話し合いをした」と答えた生徒が20%であり、十分な話し合いがもたれていない状況がある。

また、「自分の考えや意見を言える」と答えた生徒は16%であり、自分の意思表示がうまくできず、コミュニケーション能力が不足していることが伺える。

これらのことから、意見を交わす話し合いの場を十分に設けることで、コミュニケーション能力を高める必要がある。

また、「目標を決めて行事に取り組んでいる」、「計画的に行事に取り組んでいる」と答えた生徒がともに18%であり、計画性に乏しいことが伺える。さらに、「行事の反省やまとめをしている」10%、「前年度の反省などを生かしている」13%と答えており、十分な反省やまとめが行われていない状況がある。

これらのことから、目標を明確にし、計画的に実践し、まとめを行うことで、次回へのさらなる意欲と実践する力を養う必要がある。

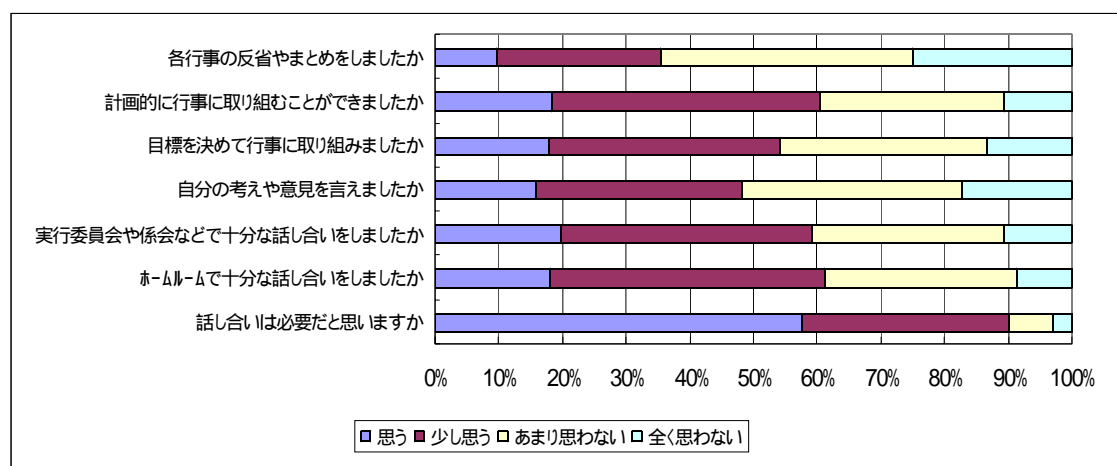


図5 学校行事に取り組むときについて

#### 4 「自己を生かす力」をはぐくむための指導の観点

以上の調査結果から、「主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導」の観点として、次の3点を設定した。

- (1) 各自の役割を明確にするとともに、個に応じた活躍の場を設けることで、充実感や主体性を養う。
- (2) 意見を交わす話し合いの場を十分に設けることでコミュニケーション能力を高める。
- (3) 目標を明確にし、計画的に実践しまとめを行うことで、次回へのさらなる意欲と実践する力を養う。

これらの観点を踏まえて、指導の工夫を行うことにより、自ら判断し、協力して行動し、集団や社会の一員として自己を生かす力をもった生徒を育成することができる考える。

## 実践事例

### 事例1 ホームルーム活動

主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の工夫  
～ 校内合唱コンクールを通しての取り組み～

#### 1 指導のねらい

本校では、6月に校内合唱コンクールが行われる。新学年が始まってすぐの学校行事であり、各ホームルームでの取り組み方が、その後のホームルーム活動にも多大な影響を与えるとともに、ホームルームの集団としてのまとまりやホームルームの一員であるという帰属意識が形成される。

そこで、本事例では「特別活動を通して、個人の目標や役割を明確にし、生徒の活躍する場を設けることで、主体的に活動する力がはぐくまれ、集団の一員としての意識が高まり、自己を生かす力がはぐくまれる。」という仮説を基に、次の3点の方策を立てた。

ホームルームの目標を明確にするために十分な話し合いを行い、計画的に実践するための計画表を作成させる。

合唱コンクール委員・指揮者・伴奏者・パートリーダー等の中心になる生徒が進行状況の確認、課題点の割出し等を話し合うミーティングを毎日練習前後に行い、生徒相互の評価を行わせる。

生徒一人一人に練習の進行状況を把握させ、協力して練習に取り組みさせるために、パート別音取りチェックや男女別チェックを行い、自己評価、相互評価を行わせる。

#### 2 対 象 普通科 全日制課程 第3学年 40名

#### 3 取り組み

合唱コンクールに向けて、次の3点について工夫し、表1の合唱コンクールまでの日程に基づき取り組みを行った。

##### (1) 目標の明確化と計画表の作成(表2参照)

ロングホームルームの前に、合唱コンクール委員・ホームルーム委員・指揮者・伴奏者・パートリーダー等の中心になる生徒による話し合いをもち、意思の統一を図った。そして、その内容や考え方をホームルーム全体へと広げた。

##### (2) 毎日練習前後の合唱コンクール委員・ホームルーム委員・指揮者・伴奏者・パートリーダー等によるミーティングの実施

###### 〔練習前〕

- その日の練習計画の決定
- 何分間どのような練習を行うか。
- その日の進捗の確認
- どこまで、どの程度できるようにするか。

###### 〔練習後〕

- その日の反省と評価



図1 校内合唱コンクールの様子



(3) パート別音取りチェックや男女別チェック

パート別音取りチェック

その日の計画通りにパートごとに音取りができたかを指揮者・伴奏者がチェックした。

男女別チェック

音取りがある程度できるようになってきたら、パート練習の次に男女別に2パートずつ合わせる「男女別練習」を行った。その後、再度パート別音取りチェックを行い、すべてできたところで、今度は男女別に合わせてできているかを指揮者・伴奏者がチェックした。

最初は男女別練習だけであったが、チェックをしていく中で、練習の進行状況に合わせて「ソプラノ抜き練習」「バス抜き練習」「ソプラノ・テノール練習」「アルト・テノール練習」等様々な組み合わせでの練習も行われるようになった。

表1 合唱コンクールまでの日程

日程	コンクール・選曲委員会の動き	ホームルームの動き	教師の指導と援助	評価の観点
4/16	第1回コンクール・選曲委員会 ・選曲についての説明 ・実施要項・審査規定配布 ・届出用紙(指揮者等)配布		・ホームルームの中心となる合唱コンクール委員・選曲委員・ホームルーム委員で話し合う機会をもつよう助言した。	
21	合唱コンクール委員・選曲委員・ホームルーム委員による話し合い ・ホームルームの目標について ・指揮者・伴奏者・自由曲の決定方法について		・ホームルームの方針を決めることの必要性を説明した。 ・ホームルームでの話し合いの進め方について助言した。	・話し合いの進め方がスムーズに行くような工夫ができたか。
30		LHR(ロングホームルーム) ・ホームルーム目標の話し合い ・指揮者・伴奏者の決定 候補は出るが、決定には至らなかった。 ・パート分け及びパートリーダーの決定	・生徒の努力の結果が顕著に表れる行事だということを説明した。 ・話し合いがスムーズに進むよう指導・援助しながら、委員を見守るようにした。	・すすんで話し合いに参加できたか。
5/2	第1回HR選曲会議(選曲委員) ・自由曲の候補曲の選曲		・選曲の重要性を説明し、安易な選曲をしないよう助言した。	・適切な選曲ができたか。
7		LHR ・指揮者・伴奏者の決定(2回目) 候補は出るが、決定には至らなかった。	・自分の意思で立候補することの大切さを説明した。	・課題の解決のための考えを出し合うことができたか。
12	第2回HR選曲会議(合唱コンクール委員・選曲委員・ホームルーム委員・パートリーダー・有志) ・自由曲の候補曲のしぼり込み ・練習計画の作成 表2参照		・昨年度までの計画表をいくつか用意し、それを参考にして考えさせた。 ・練習計画を作成する上での留意点について説明した。	・無理のない計画が作成できたか。 ・効率的な練習をするための工夫をすることができたか。

14	第2回コンクール・選曲委員会 ・指揮者・伴奏者・自由曲届出 ・歌う順番抽選 等	LHR ・指揮者2名・伴奏者1名の決定 ・自由曲の決定 自由曲の候補曲を全員で聴き全員一致で決定した。	・全員で取り組むのであるから、全員の合意による曲にするよう提案した。	・進んで話し合いに参加できたか。
23	第3回コンクール・選曲委員会 ・ピアノ割り当て表配布 ・キーボード貸し出し	・楽譜印刷・音取りテープ作成等の事前準備(合唱コンクール委員・選曲委員・ホームルーム委員・パートリーダー)	・楽譜に指揮者講習会時に配布された注釈を書き加え、練習番号を付けるように助言した。	・注釈や練習番号が正しく、わかりやすく記入できたか。
27	合唱コンクール練習優先期間開始	表2 参照	・練習の仕方について話し合うよう助言した。 部分ごとに切って練習できるまで先へ進まないこと 確実に音を取ることを	・それぞれの役割を責任をもって果たしているか。 ・積極的に練習に参加しているか。 ・指揮者やパートリーダーに協力できたか。
6/6	第4回コンクール・選曲委員会 ・リハーサル打ち合わせ			
10	リハーサル 学年ごと(2時間ずつ)		・演奏を確認できるよう、録音を行うよう助言した。	・反省点を生かし、次に目を向けているか。
11	第5回コンクール・選曲委員会 ・当日の確認・仕事分担	短縮4時間授業午後練習開始 ・ホームルーム練習後中庭で1、2年とともに縦割りホームルーム合同発表会	・他学年の教師との連絡調整を行い円滑に発表会ができるようにした。	・準備や後片付けがスムーズにできたか。
13	合唱コンクール			・日ごろの練習の成果が十分に発揮できたか。
18		LHR(反省会) 合唱コンクール当日のビデオ鑑賞	・鑑賞できる教室を確保するとともに会の進行について助言した。	・話し合いがスムーズに進行できたか。

表2 ホームルーム練習計画

日	曜	練習予定(放課後)	ピアノ合わせ
27	火	【課】パート練習(音取り)	15:05 ~ 15:30 視聴覚室 指揮者・伴奏者
28	水	【課】パート練習 【自】パート練習(音取り) 1	15:05 ~ 15:30 視聴覚室 【課】音取りチェック(女子)
			15:35 ~ 16:00 LL教室 【課】音取りチェック(男子)
29	木	【課】パート練習 【自】パート練習(音取り) 2	
30	金	【課】パート練習 【自】パート練習(音取り) 3	
6/2	月	【課】パート練習・合わせ 【自】パート練習(音取り) 4	12:35 ~ 13:00 音楽室 男子【自】合わせ
3	火	【課】パート練習・合わせ 【自】パート練習(音取り) 5	15:35 ~ 16:00 体育館 女子【自】合わせ
4	水	【課】パート練習・合わせ 【自】パート練習(音取り) 通し	14:35 ~ 15:00 体育館 男子【自】合わせ
5	木	【課】パート練習・合わせ 【自】パート練習	15:05 ~ 15:30 音楽室 女子【自】合わせ
6	金	【課】パート練習・合わせ 【自】パート練習	15:35 ~ 16:00 LL教室 全員【自】合わせ
9	月	【課】パート練習・合わせ 【自】パート練習・男女別合わせ	12:35 ~ 13:00 視聴覚室 全員【課】【自】合わせ
10	火	【課】【自】パート練習・男女別合わせ・全体合わせ	
11	水	【課】【自】パート練習・男女別合わせ・全体合わせ	直前ピアノ合わせ 13:50 ~ 14:20 体育館
12	木	【課】【自】パート練習・男女別合わせ・全体合わせ	直前ピアノ合わせ 14:05 ~ 14:25 音楽室

注)【課】は課題曲、【自】は自由曲を示す。

#### 4 結果と考察

##### (1) 目標の明確化と計画的な練習

最初に「ホームルーム全員が団結して、曲を完成させる」＝「優勝する」という目標を決めて、その目標に向かって努力することで、ホームルームに団結力が生まれ、集団の一員としての意識を高めることができた。また、計画表を作成したことで、段階をおって練習することができた。



図2 パート練習の様子

##### (2) 生徒自ら考え、協力して行動する場の設定

毎日練習前後に中心になる生徒たちによるミーティングを行い、進行状況の確認、課題点の割出し等を行った。教師は課題点の解決方法、主に練習方法について助言を行った。

練習前のミーティングでは、最初は教師が助言していたが、徐々に合唱コンクール委員自らが中心となり指示を出せるようになった。また、練習計画についても、生徒たちが前日の進行状況等を考えつつ、「今日は男女別練習を長くした方がいい」「音が取れていないから、今日はパート練習だけがいい」等の意見を出し合うようになった。

練習後のミーティングでは、最初は自分が担当するパートの反省だけであったが、「ソプラノはもっと楽譜をよく見てほしい。細かい記号等が守られていない」「今日はソプラノの声がよく出ている」「アルトの声が聴こえないので、入るタイミングがつかみづらい。もっと声を出してほしい」等、徐々に他のパートとの相互評価をするようになった。それらの評価を各パートにもち帰り、各パートの練習に反映させていった。

##### (3) 集団の一員として自己を生かす力をはぐくむ

指揮者・伴奏者等が、毎日の練習の中でパートごとに音取りができたかをチェックすることで、練習に緊張感が生まれ、協力して取り組むことができた。生徒自身に自分たちの活動状況を把握することができた。また、パートごとに「音を取れるようにする」という目標に向かって毎日努力していく中で、パートごとの連帯感が生まれていった。さらに、男女別練習を取り入れたことで、パートごとの連帯感から男女ごとの連帯感へと広がっていった。

そして、合唱コンクール委員・ホームルーム委員・指揮者・伴奏者・パートリーダー等の中心になる生徒の目標や役割を明確にして活躍する場を設け、それぞれが自分の役割を十分に果たしたことで自信が生まれ、リーダーとなる生徒が育った。



図3 合同発表会の様子（中庭）

「ソプラノのパワーがすごかった。アルトも頑張っています。みんなに迷惑をかけないように、みんなとの意気を合わせて頑張ります」「自分で聞いていると、やっぱり全然合っていないと思う。楽譜は歌詞だけが書いてあるわけじゃないし、記号も書いてある。『歌詞覚えたから見なくてイイやー』だと、ちゃんとした歌（と言うか合唱）にはならないと思う。もっと沢山見た方がイイと思う」「絶対優勝出来る様に頑張るゾ。これでもっと 組の仲が良くなってくれれば良いなあと思う」

図4 ホームルーム日誌より

## 事例2 生徒会活動

### 主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の工夫

#### ～リーダー研修会を通しての生徒会活動の取り組み～

### 1 指導のねらい

本校では、毎年11月の生徒会役員選挙で選出されるのは生徒会長だけである。選挙後、生徒会長が副会長・書記・会計を選出し、新生徒会執行部を発足する。この生徒会が取り組む最初の行事は予餞会(3年生を送る会)で、例年、短期間に前年度の資料を参考にしながらの手探りで取り組むため、十分な話し合いをもたずに、準備に追われてしまう。その結果、生徒は予餞会の運営の困難さだけを味わうことになる。

そこで、春季休業期間中に行われているリーダー研修会を活性化することで、生徒会執行部の運営や行事などへの取り組みを円滑に実施し、その過程で生徒一人一人に「自己を生かす力」をはぐくむことができると考え、以下の3点のねらいを設定した。

- (1) 生徒会役員が行事などの担当を決め、前年度の資料を基に見直しを図ることで、生徒会役員としての自覚をもたせる。
- (2) 生徒会役員が、リーダー研修会資料を作成することで、行事など自己の担当の役割への責任感を養う。
- (3) 生徒会役員の話し合いを通して、他者の意見を聞き、自分の考えを発表することで、コミュニケーション能力を高める。

### 2 対象 商業科 全日制課程 生徒会役員 13名

### 3 取り組み

#### (1) リーダー研修の企画と準備

生徒会長を中心に前年度3月の学年末考査終了後から、リーダー研修会実施要項(表1参照)を作成し、準備を行い、春季休業期間中に実施する。(表2参照)

新生徒会執行部で最初に取り組んだ予餞会の反省会で、「準備をするのが遅かった」「新しい企画を入れたかった」「司会や

表1 リーダー研修会実施要項

日程	平成15年3月31日(月)・4月1日(火)
場所	本校教室
目的	・昨年度の総括及び今後の生徒会の仕事の進め方を話し合う。 ・生徒会役員の親睦を深める。
参加者	生徒会役員(会長1名、副会長4名、書記4名、会計4名)・担当教師2名
議題	生徒会会長公約(ボランティア)について 文化祭について 球技大会について 体育祭について 生徒会新聞・生徒会誌について 生徒会予算・消耗品管理について 生徒総会について 新入生歓迎会について 生徒会室の環境整備について

照明など、係の仕事が十分に行えなかった」「舞台リハーサル前に各団体と照明・音楽などの打ち合わせをもっとすれば良かった」などの意見が挙げられた。

そこで、これらの反省を踏まえながら、リーダー研修会では、今後の生徒会の流れと各行事など生徒会役員各自の担当の取り組み方について、約一時間を割り当て、話し合うことにした。生徒は自分の担当について、話し合いが円滑に行われるための資料を作成した。

しかし、資料作成準備が進まない担当があったため、教師が担当者呼んで話を聞くと生徒会役員の2年生と3年生が組んだことで、コミュニケーションが取れていないことが分かった。そこで、それまで担当ごとに教室で分散して行っていた作業を生徒会室とパソコン室の2部屋で行うことにして、皆で準備をしていることを意識しながら作業ができるようにした。その結果、生徒会役員間に生徒会執行部への帰属意識が生まれ、他の生徒会役員の意見を取り入れた資料を作成することができるようになった。

表2 リーダー研修会までの流れ

日程	生徒会役員の活動	教師の指導と援助	評価の観点
3月上旬	<b>担当者の決定</b> （表1参照） ・本人の希望を尊重しながら、来年度への引き継ぎを円滑にするために、2年生と3年生がペアとなるよう担当者を決定する。	・この研修の取り組み方が今後の活動にかかわることを説明する。 ・責任をもって行事などの担当に取り組むよう助言する。	・他者の意見を取り入れながら担当の決定が円滑にできたか。
春季休業中	<b>登校日の決定</b> ・担当者2人で決定する。 <b>資料の作成</b> ・前年度、行事に参加して感じた点についての話し合いをする。 ・担当する行事などに問題点がある場合、改善策を考える。 ・行事までのスケジュールを作成する。 ・担当の教師と資料の確認をする。	・議題の担当者同士で何度も話し合いの機会をもつよう助言する。 ・昨年度の問題点、反省点を分析するよう助言する。 ・目的、行事までのスケジュールを考えるよう助言する。 ・話し合いのしやすい資料を作成するよう助言する。	・自分の仕事を責任をもって行っているか。 ・昨年度の資料を参考に自分の考えをまとめているか。 ・学校行事と生徒会役員の仕事の流れを順序立てて考えているか。 ・話し合いのしやすい資料を期日までに作成しているか。
3/28	<b>資料の印刷と製本</b> （図1参照） <b>議事進行の手順の確認</b>	・話し合いのしやすい製本を考えるよう助言する。 ・資料を参考にどのようにリーダー研修会を進行していくのか担当者で確認するよう指導する。	・話し合いのしやすい資料を製本できたか。 ・議事進行の方法を話し合っているか。
3/31 4/1	<b>リーダー研修会当日</b> ・1時間ごとに9項目の議題についての話し合いをする。	・話し合いに入る前に資料を読んで考える時間をつくるよう助言する。 ・自分の経験から発言できるような質問や考えさせる質問を投げかけるよう助言する。	・担当者が責任をもって議事進行を行っているか。 ・他者の意見を取り入れながら、自分の意見を積極的に述べているか。 ・生徒会役員の一員としての自覚をもつことができたか。 ・今後の行事に積極的に取り組む姿勢ができたか。

(2) リーダー研修会の様子

生徒会長が総合司会となり進行したが、担当者は自分が担当した資料を読み上げ、他の生徒は資料を見ているだけになり、意見の交換ができなかった。そこで、教師は、生徒会長に以下のような進行方法を助言した。

担当者同士で話し合いの方法を再度確認する。

資料を読み、考える時間を話し合いの前に取る。



リーダー研修会の様子

自分の経験から答えられる質問を投げかけて、意見を出しやすいようにする。

その後、生徒会長が各担当者へ話し合いの方法を伝えた。このことで、徐々に発言が増え、活発な意見交換をすることができた。また、昨年の問題点や反省点を話し合うことで、具体的な改善策を考えることもできた。

各行事など各自の担当について、話し合っているうちに、行事を1年間という時間の流れでとらえられるようになった。生徒から、「生徒会行事カレンダー（表3参照）を作ろう」という意見が出され、実際にこのカレンダーを作成した。このことで、生徒会の忙しさに驚くとともに、生徒会役員としての自覚も生まれた。

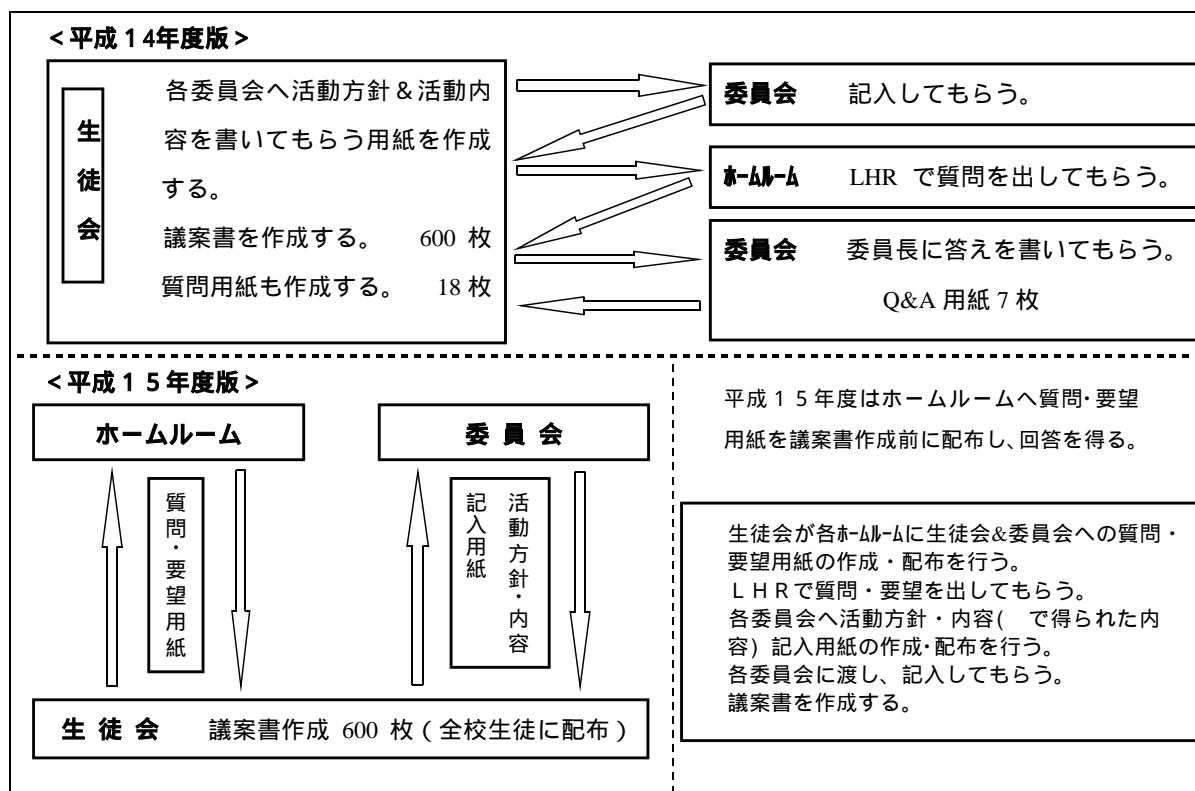


図1 リーダー研修会資料

#### 4 結果と考察

表3 生徒会行事カレンダー

このリーダー研修会は議題決定や研修会の準備など、すべての生徒会役員の役割を明確にしたことで、一人一人が責任をもって取り組むことができた。当初は、他人任せで自分から主体的に行動することのできなかつた生徒も、他の

月	学校行事	生徒会役員の動き
11	生徒会役員選挙	生徒会誌準備開始 生徒会新聞準備開始
12		予餞会準備開始 生徒会新聞発行
1		
2	予餞会	予餞会運営
3	<b>リーダー研修会</b>	生徒会誌発行 新入生歓迎会準備開始 学年末の反省
4	新入生歓迎会	球技大会準備開始 新入生歓迎会運営 体育祭準備開始
5	球技大会	球技大会運営 生徒会新聞準備開始
6	体育祭	文化祭に向けて活動開始 体育祭運営の協力
7		生徒会新聞発行 1学期の反省
8		
9		
10		ボランティア活動
11	文化祭	文化祭運営の協力 校内クリーンキャンペーン 2学期の反省

生徒会役員の言動に触発され、互いに刺激し合いながら、自分の役割を認識し、自己実現の場を見出すことができた。生徒はリーダー研修会のアンケートで図2のような感想を寄せた。

このことから、成果として次の3点が挙げられる。

- (1) 意見を交わす話し合いの場を十分にもったことで、1年間、協力して活動する生徒会役員間のコミュニケーション能力を高めることができた。
- (2) 生徒会役員として、意欲的に活動や行事に取り組もうという姿勢ができ、学校行事に対して、受け身ではなく自らが深くかかわろうとする態度をはぐくむことができた。
- (3) 話し合いのしやすい資料の作成と活発な意見交換から、生徒たちは十分な達成感と充実感を得ることができた。

今後の課題として、次の2点が挙げられる。

- (1) リーダー研修会で話し合った内容を各行事で実践し、成功させることで、最終的な達成感や充実感を得られるよう継続的に指導する必要がある。
- (2) 生徒会担当の教師は、リーダー研修会で話し合った各行事のねらいや企画が達成できるように、各行事担当の教師やホームルーム担任との連携を図っていくことが大切である。

・思ったより、話し合いがおもしろいことに気がきました！！いろいろな意見がでて、考えるのが楽しくてしょうがないです。

・去年より内容が濃くなり良かったです。くわしく問題点・改善点がでたので分かりやすかった。これからの行事におおいに役に立てたいと思います。

・生徒会役員の役割はめだってなさそうだけど、実はとってもがんばり屋の改革集団です。

・意見がいろいろ飛びかってすごいと思った。自分の担当の仕事・内容を理解して行うことが何より大切だと、自分や他者の発表を聞いて感じました。

図2 リーダー研修会アンケート

### 事例3 学校行事

主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の工夫

～ 状況報告書・企画書を用いて主体的・計画的に文化祭に取り組む工夫～

#### 1 指導のねらい

本校の文化祭は毎年9月に実施されており、準備は4月下旬より始まる。多くの生徒にとって最も「好き」な行事の一つである。しかし、企画や準備については、団体顧問（ホームルームの場合は担任）によって進められる場合が多く、生徒自身の主体的な活動にならない面がある。この原因として、本校の生徒は与えられた課題には取り組めるが、自ら考え、判断して行動する力が十分にはぐくまれていないためであると考えられる。

そこで、生活指導部の文化祭担当として、各団体の生徒がより主体的・計画的に文化祭の企画や準備に取り組めるように、次の3点の指導の工夫をすることにした。

- (1) 昨年度の資料などを生かして、文化祭に向けて常に見通しをもって、計画的に話し合いや準備を進められるようにする。
- (2) 「状況報告書」を提出させることによって、各団体の話し合い活動を促すとともに、1週間程度の単位で企画の進行状況や準備の計画を細かく作成させるようにする。
- (3) 「企画書」を作成させることによって、各団体が主体的に企画を考え、計画的に準備に取り組んでいけるようにする。

このような点に留意して指導・援助していくことにより、生徒個人の目標や役割を明確にし、生徒の活躍の場を設けることで、主体的に活動する力がはぐくまれていくと考えた。

2 対象 普通科 全日制課程 文化祭実行委員 50名

#### 3 取り組み

生徒が文化祭への取り組みを通して、自己を生かす力をはぐくむための3点の指導の工夫を下表のような取り組みの中で行った。

表1 生徒の取り組みと教師の指導

日程	生徒の取り組み	教師の指導と援助	評価の観点
4月 中旬	実行委員会の立ち上げ ・文化祭の全体像をつかむ。 ・ホームルーム企画の中心として自覚をもつ。 ・文化祭までの計画を考える。	・前年度資料の他にビデオの上映会を開くなどして、文化祭全体のイメージをつかめるように工夫する。 ・実行委員がホームルームの中心であることを説明する。	・文化祭の全体像がつかめたか。 ・ホームルームの中心としての自覚がもてたか。
5月 中旬	ホームルーム企画についての話し合い ・委員会での決定内容（図1参照）をホームルームへ伝達するとともに「状況報告書」（図2参照）を作成する。	・配布資料を工夫（図1参照）して、各ホームルームへの説明を援助する。 ・「状況報告書」によって各ホームルームの状況を把握する。 ・担任との連携を図るよう助言する。	・実行委員がホームルームの生徒や担任と十分にコミュニケーションを取っているか。
5月 下旬	企画の決定 ・「企画書」（図3参照）を作成する。	・企画の決定に向けての話し合い活動の進め方について助言する。	・主体的に計画を考えているか。
7月 ～ 9月	文化祭に向けての準備 ・文化祭の準備をするとともに「状況報告書」を作成する。	・企画書に沿って準備が進行しているかなど必要に応じて助言する。	・計画に沿って準備を進めているか。
9月 下旬	全体の総括 ・アンケートを実施するとともに「白書」を作成し、取り組みを評価する。	・「白書」を作成させることで、文化祭への取り組みを生徒に評価させる。	・文化祭への取り組みを適切に評価できたか。



(1) 実行委員会での配布資料の工夫

実行委員会で配布する資料に必要な内容をすべて記入してしまうと、ほとんどの生徒はホームルームで配布資料の内容をあまり理解しないで、ただ読んで伝えるだけになってしまふ。

そこで、図1のように大切な内容を空欄にした資料を作成し、実行委員会で配布した。生徒は実行委員会での説明を聞きながら、この資料に必要な事項を書き込んでいった。また、同様に日程表も空欄にしておき、生徒が記入するようにした。

このことで、生徒はホームルームで報告する内容を理解して伝えることができるようになった。

**第1回 ○○祭実行委員会**

◎ 今日やること

- ○○祭実施要項の確認 (一般者 前年度の○○祭実施要項)
- 全体計画日程の確認 (→ ○○祭までの日程表)
- 三校(委員長、副委員長、書記)の決定
- 役割分担の確認

本日のめあてとすぐに担任の先生と相談して、どのSHRで○○祭について実行委員会からクラスに説明する時間がとれるか確認しておくこと。  
 (以下各項目についても必ず担任の先生に連絡しておくこと)

◎ SHRで報告すること

1. ○○祭の日程 非公開 一般公開の日程  
9月19日(金) 20日(土)  
9月に入ってから 3週間

2. 高学年への部活動説明  
 基本は クラス である。

3. 参加部門

演劇部	飲食	緑日	展示発表	部門別	自由企画
	<u>0~4</u>	<u>0~3</u>			

◎ 出し入れ係は 舞台発表

4. 企画書の提出  
 企画書提出日: 5月16日 締め切り日: 7月11日までで提出

図1 実行委員会での配布資料

(2) 「状況報告書」の作成

○○祭 HR企画進行状況報告書 #01

2年 組

4月25日(水) 現在のクラスの状況について

①	②	③	④	⑤
展示研究発表	舞台発表	飲食	緑日企画	部門別

1. 現段階でクラスの企画ほどの部門になりそうですか?  
 2. もし具体的な企画の案が出れば、書いてください。  
飲食部がまだできていない!

3. 実行委員の君達が(現段階で)考えている部門はどれですか?  
 4. 具体的な企画の案などがあれば、書いてください。  
飲食部が緑日企画

5. 担任の先生とはどのような話し合いをしましたか?  
まだ最終的には話し合えてません。

6. LHR、SHRではどんなふうに説明しましたか?  
日時、クラスの企画について。

7. LHRなどでのクラスの雰囲気など、何か気がついてことがあれば  
女子は元気に結構反応してくれました。

8. その他に何か(この際だから)言っておきたいことなどあればどうぞ  
クラスで固結して協力させたいです。

9. 今後のHRなどの進行予定を裏面に書こう!  
 (この日までにどんな事を決めるとか、話し合いなどを書き入れてください。)  
できるだけ早く書いて、本日(4/26)の実行委員会で提出する!

図2 「状況報告書」

毎週、実行委員会では、各ホームルームで計画的に話し合い、準備を進めているかどうかを把握するための「状況報告書」を作成して、配布した。各ホームルームでは、この「状況報告書」に必要な事項を記入し、実行委員会に提出した。

これによって、いつまでに何について話し合う必要があるかを明確にすることができた。その結果、話し合い活動が促進され、計画的に取り組んでいくことができた。

実行委員は、報告書をまとめることで、企画の進行状況を理解するとともに、話し合いが順調に進んでいるか、滞っているとしたら原因は何かを把握することができた。また「状況報告書」は必ずコピーして担任に渡し、担任がホームルーム企画の進行状況を把握できるようにした。

### (3) 「企画書」の作成

7月上旬、実行委員会では、各団体に詳細な「企画書」を提出させた。例えば、飲食部門の「企画書」では、会場のレイアウト、材料の調達方法・仕入れ価格や仕入れの方法・販売価格の設定など、必要事項を詳細に記入させて、実行委員会に提出させた。

実行委員会が、各団体に詳細な「企画書」を作成させることで、各団体は企画の話し合いや準備を計画的に行うことができた。また、提出された「企画書」は、次年度以降の実行委員会に引き継ぐことで、次年度の各団体の企画決定の際の参考にすることができる。

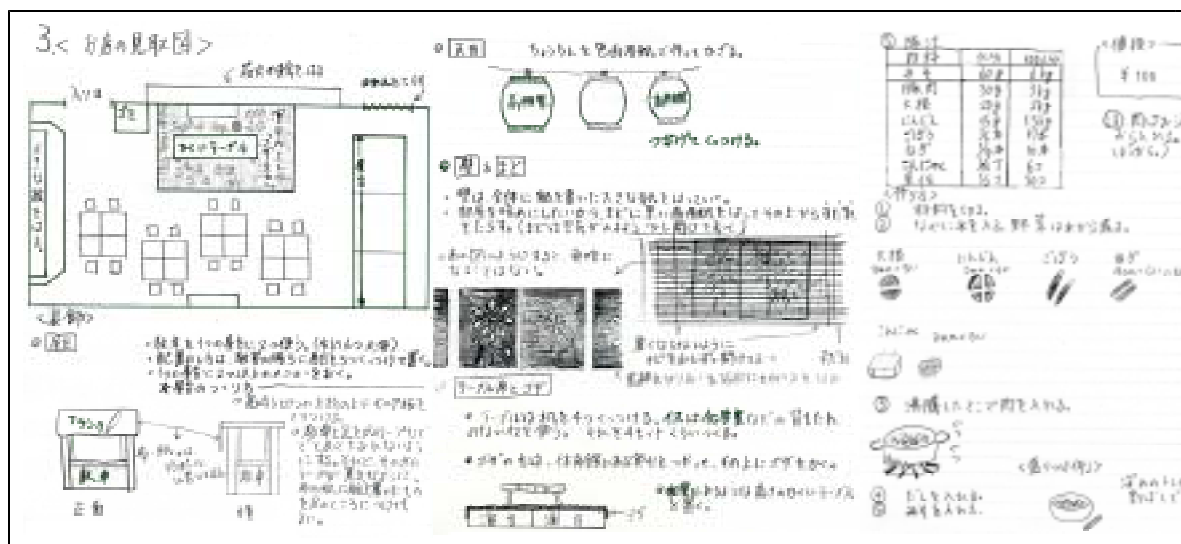


図3 飲食部門の「企画書」と実際の店内の様子

### (4) アンケートの実施と「白書」の作成

実行委員会では、文化祭終了後、生徒と教師にアンケートを実施した。このアンケートによって、実行委員は各ホームルームでの活動が計画的に進められたかなどを評価することができた。また、実行委員会は、各団体の代表者や実行委員が書いた感想文をまとめて、「白書」として発行した。

#### 4 結果と考察

##### (1) 実行委員会の立ち上げについて

実行委員会の立ち上げでは、前年度の資料やビデオを上映するとともに、ビデオや過去の資料を常時貸し出せるようにした。これらのことで、実行委員や各ホームルームの生徒が、文化祭の全体像をつかみやすくすることができた。特に、実行委員は自覚をもってホームルーム活動をリードすることができた。また、実行委員は前年度の資料を参考にして、計画的にホームルームの企画に取り組むことができた。

##### (2) 企画決定の支援について

これまでの文化祭では、実行委員からホームルームの生徒へ必要な内容が正確に伝わらないことが多かった。このため、各ホームルームでの話し合いでは、担任の支援が必要となることが多かった。しかし、今回の「状況報告書」を作成することで、企画段階・準備段階で実行委員が「状況報告書」に沿ってホームルームの活動計画を考え、話し合うことができた。また、担任もホームルームや実行委員の状況をつかむことができた。

さらに、「企画書」を作成することで、各ホームルームで実行委員を中心に調査や話し合い活動を進めることができた。特に、前年の企画書を参考にして記入するようにしたため、「何を決めなくてはならないか」が非常に分かりやすく、記入しやすかった。また、「企画書」に沿って計画的に準備に取り組むことができた。

##### (3) アンケートの実施と「白書」の作成

文化祭終了後に実施したアンケートでは、実行委員会の活動に対する感想や反省が寄せられた。これらの内容は、実行委員自身の活動についての評価をする良い機会となった。また、「白書」の作成によって各団体の活動をまとめるとともに、文化祭への取り組みを次年度以降の資料として残すことができた。

「ホームルームの企画がとても良かった」  
「実行委員がホームルームをよくまとめてくれた」  
「自分達の力で企画書を書けた」「企画書に沿って準備を進められた」  
「企画書を書くのは大変だったけど、いい企画書を書くことができた」

図4 文化祭後に実施した生徒アンケートより

##### (4) 今後の課題

実行委員は主体的に「企画書」を書くことができたが、その内容を十分にホームルームで話し合ったり説明する点が十分ではなかった。

今後は、「企画書」の中にホームルームでの話し合いの経緯を盛り込むなどの改善をする必要がある。

「企画書」には様々なアイデアが盛り込まれたが、実際の準備段階になると「企画書」通りには実践されていないことがあった。

今後は、「状況報告書」との関連を図りながら、「企画書」と実際の準備の進行状況とを比較して「自己評価」をさせていくことが大切である。

## 事例4 学校行事

主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の工夫

～文化祭実行委員が中心となって運営する文化祭の活性化～

### 1 指導のねらい

本校では、例年非公開だった文化祭を、昨年度からチケット制による公開で行った。このことが、文化祭実行委員（以下「実行委員」と略す）が意欲的に文化祭に取り組むきっかけとなった。しかし、生徒はこれまでにホームルーム（以下「HR」と略す）や行事の中心になった経験が少なく、主体的な活動をするためには教師が手厚く支援する必要があった。

また、本研究の生徒の意識調査の結果（3～5ページ参照）によると、「学校行事は好きだが、主体性や実践力をもって活動しているとは言えない」「十分な話し合いがもたれているとは言えない」「コミュニケーション能力の不足」「計画性に乏しい」ことが指摘された。

そこで、本年度は実行委員が中心となって、生徒がより主体的に文化祭を運営できるように、次の3点のねらいを設定した。

- (1) 他者と協力して計画的に行事に取り組むことで、円滑な人間関係を構築するとともに、集団生活の向上のために力を尽くそうとする態度を養う。
- (2) 意見を交わす話し合いの場を設けることで、コミュニケーション能力を高めさせる。
- (3) 実行委員の役割を明確にし、企画・運営の方法を考え、責任を果たすことで達成感と自己有用感をもたせる。

### 2 対象 商業科 全日制課程 文化祭実行委員 20名

### 3 取り組み

指導のねらいを達成するために、次の3点の指導の工夫をし、表1のような活動を行った。

- (1) 実行委員がHR週間評価表（図1参照）を活用し、週ごとに進捗と成果を確認することで、HR企画を推進する上での課題を明確にする。
- (2) 実行委員が、事前の書き込み式アンケート（図2参照）を活用し、事前に自分の意見をまとめることで、毎週の定例会における話し合いを活発にする。
- (3) 実行委員が文化祭の運営方針を決め、文化祭実行委員会ニュースを発行したり、決定事項をHRで発表したりすることで、HR企画の推進を図る。

3年4組実行委員が記入			3年3組実行委員より
週	進捗と成果	課題と対策	アドバイス
9月第2週	・模擬店と身体測定の器具の配置を決めた。 ・会計を決めた。 ・調理係が当日の招待試合で抜けてしまうことが分かって決まらなかった。	・芸能祭で歌う曲が一曲決まっていないので来週は決める。 ・来週は個人の当日の予定も考えて、調理係と身体測定係を決める。	順調に進んでいますね。この調子で歌も練習して良いものを！みんなで最高の文化祭にしましょう！

図1 HR週間評価表（3年4組「模擬店ホットドッグ」「身体測定」「芸能祭」）

- 今回のために一人一人考えて意見を書いてください(4/23までに提出)
1. なぜ公開したいのか、昨年のことを踏まえて公開したら大変になりそうなことや、それに対する対策などを書いてください。
  2. 今年の文化祭の規模について、次のどの方法が良いか。また、その理由を書いてください。
    - (1) 今まで通り、2日間で、芸能祭(舞台部門)と展示祭を行う。
    - (2) 1日で行う。芸能祭か展示祭どちらかのみ行う。
    - (3) 1日で芸能祭と展示祭両方行う。
  3. 今年は展示祭での模擬店はやめるという意見もあります。理由は「模擬店以外で日頃の活動を表現できる内容があるから」です。あなたの意見はどうか。

図2 書き込み式アンケート

表1 活動と指導の実際

	文化祭実行委員を中心とした活動	教師の指導と援助	評価の観点
4月	文化祭の運営について ・事前の書き込み式アンケート(図2参照)を活用して話し合いをする。(図3参照) ・文化祭実行委員会ニュース(図4参照)を発行するとともに実行委員会の結果をHRで発表し、文化祭への動きを知らせる。	・毎回、委員長・副委員長と事前に打ち合わせをし、生徒だけで話し合いができるように議題をプリントにさせる。 ・事前に意見を考えさせ、話し合いが活発に行われるように助言する。 ・議論 決定 伝達 実践の流れを明確にするように指導する。	・事前の打ち合わせで、実行委員会の内容と議事の手順をまとめられたか。 ・全員が考えて活発な意見交換がなされたか。 ・文化祭実行委員会ニュースの紙面が分かりやすく工夫されているか。
5月	文化祭の運営方針について ・実行委員が中心となって文化祭の運営についてHRで話し合い、生徒各自に文化祭への意識をもたせる。 ・HRでの話し合いとこれまでの実行委員会の結果をまとめる。	・HRでの話し合いにおける役割と方法について助言する。 ・文化祭全体の運営方針についてまとめるように指導する。	・文化祭の運営の方法について活発な議論をし、まとめられたか。
6月	文化祭の企画について ・文化祭実行委員が中心となって、HR企画について話し合い、決定する。	・HRでの話し合いが実行委員主体で円滑に進むように助言する。 ・過去の企画や他校の企画など参考資料を提供し、実行委員が中心となって企画を決められるように助言する。	・実行委員が教師に頼らずに、HR企画を進められているか。
7月	文化祭の企画審査について ・実行委員会でHR企画の調整と審査をする。	・昨年の企画を参考にして、実行委員が企画審査を的確にできるように助言する。	・実行委員がHR企画の審査を的確にできたか。
9月	HR企画の準備 ・HR週間評価表(図1参照)を活用して計画的に準備する。	・HR企画が計画的に進んでいるかを把握し、実行委員の間で相互にアドバイスをするように助言する。	・HR企画が計画的に進んでいるか。 ・実行委員の間で、相互のアドバイスが適切にできたか。
10月	成果と反省について ・実行委員会で事後アンケートと話し合いを行う。	・成果と反省点を今後の生活に生かしていくように助言する。	・客観的な自己評価で取り組みを評価することができたか。

#### 4 結果と考察

本年度の文化祭では、実行委員が文化祭の日数や企画内容、チケット制公開の方法などについて主体的に検討を行い、積極的な運営をすることができた。(図4参照)

事後の実行委員アンケートでは、HR週間評価表を用いることで、実行委員の8割が「計画的に企画を進められた」「大変だったが、目標を決めて、HR企画に取り組み、新しい友情が芽生えた」と答えており、生徒が協力して計画的に取り組む中で、円滑な人間関係を構築できた。

また、毎週行われる定例会の前に書き込み式アンケートを実施し、活用したことで、実行委員の9割が「自分の考えを述べることでできた」と答えており、コミュニケーション能力を高めることができた。

さらに、実行委員の多くが、取り組みの過程を「HRをまとめるのが大変だったが、自分の力になった」「仕事をちゃんとやりきって、いい充実感を得られた」「準備を含めて充実した」と振り返っている。このことから、実行委員として自己の役割を把握し、HRをまとめる努力をするとともに、責任を果たし、自己有用感をもつことができた。

今後は、教師が話し合いや実践の場の設定を工夫することで、生徒の主体性、責任感、実践力、協調性やコミュニケーション能力をさらに養う必要がある。



図3 実行委員会(定例会)の様子

- ・一人一人がしっかり仕事できて良かったと思う。
- ・積極的に取り組めた。ちゃんと実行委員として力になれたので良かった。
- ・HR企画が思うように進まなくてイライラすることが多かった。でも協力できたと思う。
- ・HR企画で個々の意見を聞いてお互い気分良くするのに苦労して大変だった。
- ・HRをまとめるのが大変だった。
- ・「自分がいたからこそ文化祭がうまくいった」と皆が思えたと感じる。
- ・久々にこういう仕事をちゃんとやりきっていい充実感を感じている。
- ・最高に楽しかった!

図4 実行委員の事後アンケートの感想より

☆○○実行委員会ニュース☆  
Vol.4  
平成15年6月13日発行  
発行会○○実行委員会編集会○○○○○

1. 一次企画は7月2日(水)までに!

2. ○○優秀スターパンフレット表彰・さし紙大賞!

※賞品は、主催団体の贈呈、○○さんのものに決定しました。  
おスターは○○先生まで、デザインのコピーを入れてください。  
パンフレットさし紙や表彰状は○○先生か○○先生まで。

3. 実行委員で話し合ったことを、職員会議で確認しました

(1) 賞品の件: 卒業のみ数食可。賞品は不可。なので、4つの食品類を出すことにしています。一つのクラスで2つの品を出すのは不可。例えば、焼きそばと豚汁はダメだけど、焼きそばと豚汁とカレーやカップのお湯を混ぜただけのみを汁やスープは可能なので、お湯を混ぜる具を3種類にしたりするなど、工夫して下さい。よって今年の調理団体は、ジャンク部を入れても団体。それ以上だと、真意が真実で、衛生的にも問題なので不可とします。

(2) 今年は、他校にチケットを売って宣伝します。  
4年区と○○に文化祭の案内を渡って来た学校と、近隣の小中学校にはパンフレットと○○の生徒会関係のチケットを送ることにします。

4. 関係者・芸術部に個人(有志)参加する人募集!  
詳しくは実行委員か○○先生まで。

5. 今年も各委員会に○○様のお仕事を頼みたいと思います。  
★は今年だけ替えられたり変更されたことです。  
代議委員: ★校内巡回  
企画委員: 案内を巡回してゴミ拾いとゴミ箱のゴミ捨て  
★14:30-15:30にゴミの分別を先生・指導さんと  
保護委員: 夜間  
図書委員: 受付を実行委員とともにするが、案内もあるので頼みたいへん  
編集委員: ★今年も受付に  
実行委員: 校内警備巡回(文化委員と一緒に)  
実行委員: 校内警備巡回一回かあったら職員に連絡し、トランプを渡す  
準備のチケット印刷(代議委員に手紙でもらう)と当日受付でチケットと印刷物の頒布。その他たくさん

公式ロゴ作成者から一言☆○○○○☆

私のデザインを選んでくれた人、ありがとうございました。  
○○最善の文化祭に、私の力が役立てて本当に嬉しいです。

図5 実行委員会ニュース

## 事例5 学校行事

主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の工夫

～ 団長を中心とした団活動をより活性化させる指導の工夫～

### 1 指導のねらい

本校は4科からなる工業高校で、科ごとに団を組織し、団単位に練習や準備を行い、団対抗形式で体育祭を行っている。これまで、本校の体育祭は、ホームルームや学年を超えた、より大きな集団や幅広い人間関係を通して学ぶ場として最適の場面とされてきた。

しかし、最近では前年度のやり方を踏襲しただけの団活動になり、団としての1年生から3年生までの大きな集団の中で、生徒一人一人が自己を生かす力（主体性・責任感・実践力・協調性・コミュニケーション能力）をはぐくむことが少なくなっている。

そこで、本事例では団長を中心として、生徒が主体的に団活動に参加し、自己を生かす力をはぐくめるように、以下の3点をねらいとした。

各自の役割を明確にし、団の一員である自覚をもたせる。

団活動を計画的に進める中で、協調性とコミュニケーション能力を高める。

来年度への課題などの引継を工夫し、団活動に継続性をもたせる。

### 2 対象 工業科 全日制課程 全学年

### 3 取り組み

体育祭における団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむために、次の3点の指導の工夫をし、表1のような活動を行った。

#### (1) 個人目標カードの活用

各団長と体育祭担当教師との打ち合わせで、生徒一人一人が体育祭の団活動へ参加する自覚をもたせるために、個人目標カード（図1参照）を作成することにした。団と学年の目標を踏まえ、生徒各自の目標や役割を明確にするとともに、練習期間中と体育祭終了後に各自の取り組みについて、自己評価を行えるようにした。また、練習期間中に集めた個人目標カードを団

長が読むことで、各団員の目標と活動状況を把握できるようにした。

( ) 団 ( ) 年 ( ) 番 氏名 ( )	
団 目 標	<input type="text"/>
学 年 目 標	<input type="text"/>
個 人 目 標	<input type="text"/>
個 人 役 割	<input type="text"/>
自己評価基準（1完璧2何とかやれた3いまひとつ4次回はやる）	
第1自己評価	1. あなたが見て今週一番頑張っていた同学年の団員の名前を1人あげてください。( ) 理由は？ 今週の体育祭の練習での感想や意見を書いて下さい。 自己評価 目標について ( ) 役割について ( )
第2自己評価	2. あなたが見て今週一番頑張っていた同学年の団員の名前を1人あげてください。( ) 理由は？ 今週の体育祭の練習での感想や意見を書いて下さい。 自己評価 目標について ( ) 役割について ( )
体育祭後評価	3. あなたが見て体育祭で一番頑張った同学年の団員の名前を1人あげてください。( ) 理由は？ 体育祭全体の練習での感想や意見を書いて下さい。 自己評価 目標について ( ) 役割について ( )
体育祭を終えての一言	
来年度にこの学年になる後輩へ一言	

図1 個人目標カード

## (2) 団活動計画表の作成

団長は、団の目標を達成するために、団活動計画表をつくり、体育祭までの5週間の活動計画を立てられるようにした。また、個人目標カードを参考に、団員の活動状況を把握するとともに、必要に応じて団活動計画表の修正を行った。

## (3) 団長申し送り表の作成

団長による団活動の成果と課題をまとめて、次年度への記録として残した。

表1 団の活動状況

日程	団長の活動	団活動	団長への支援・助言	評価の観点
9月 1.2週	個人目標カードの作成 団目標の決定 学年代表招集  個人目標カードの配布 個人目標カードの回収 団活動計画表の作成	1.2年応援練習  昨年の体育祭ビデオ視聴 学年の目標決定 個人目標カード記入 (個人目標記入)	団の現状を考えさせ、個人目標カード、計画表の利用について考えさせる。	団長として団活動にあった工夫をしているか。
9月 3週	個人目標カードの配布 個人目標カードの回収 団活動計画表の修正	1.2年応援練習 個人目標カード記入 (1回自己評価の記入)	個人目標カードを分析し計画表への生かし方を考えさせる。	次週の練習計画の見直しを図っているか。
9月 4週	団活動指揮 個人目標カードの配布 個人目標カードの回収 団活動計画表の修正	全体練習開始 個人目標カード記入 (2回自己評価の記入)	団全体の動きに注意し、安全への配慮をして、個人への働きかけについて考えさせる。	次週の練習計画の見直しを図っているか。
9月 5週	団活動指揮	全体練習	団全体の動きに注意し、安全への配慮をして、個人への働きかけについて考えさせる。	団全体を把握しているか。 安全に配慮しているか
当日	応援及び競技指示 団活動の把握	応援 競技参加	団長同士の連携と団全体の把握について考えさせる。	団全体を見ているか。 団長同士の連絡ができているか。
事後 指導	個人目標カードの配布 個人目標カードの回収 次年度の団長申し送り表作成	個人目標カード記入 (体育祭後自己評価記入)	個人目標カードと申し送り表の関係について考えさせる。	個人目標カードの内容を分析し、次年度へ生かせる記録となっているか。

## 4 結果と考察

### (1) 個人目標カード

個人目標カードを活用することで、生徒一人一人が自己の役割を明確にするとともに、体育祭までの練習期間中に2回の個人目標カードによる自己評価や感想などを書くことで、団活動にどこまで積極的に参加できたかを自己評価させ、生徒に団の一員としての自覚をもたせることができた。

また、「体育祭を終えての一言」(図2参照)では、「練習をしっかりとやらないと達成感が得られない」、「もっと競技練習をすれば良かった」など生徒から来年度の体育祭に向けての多くの意見を集約できた。今後の課題としては、生徒からより具体的な意見を聞き出すための質問項目の工夫を図っていく必要がある。



- ・初めての体育祭でとても驚いたけど楽しかった。(1年生)
- ・練習は辛くてサボりたかったけど、一度もサボらなかったので達成感で一杯になりました。だから、練習はサボらない方がいいです。(1年生)
- ・今年みたいにまとまりのないクラスにならないようにがんばってほしいです。(2年生)
- ・今年自分を含めまとまりがなかった。(2年生)
- ・体育祭の片づけに来ない人は来た人の大変さを考えて欲しい。(3年生)。

図2 体育祭を終えての一言

## (2) 団活動計画表

今回、団長が団活動計画表を作成したことで、自分の団の活動状況を把握できるようになった。また、団員の個人目標カードの自己評価や感想を踏まえた練習計画の修正も行った。団長は、体育祭終了後の感想で「団活動計画表をつくったり、団員の個人目標カードを読んだり、大変だったけど、団の状況がつかめた」「1年や2年の団員に声をかけて、引っ張っていくことができた」など、団活動を計画的に進める中で、団長と団員との協調性とコミュニケーション能力を高めることができた。

## (3) 団長申し送り表

団長申し送り表を作成したことで今年度の団長が考えたり、工夫したりして成果を挙げた点や今後の課題を明らかにすることができた。また、このことにより、貴重な次年度の資料となり、団活動の継続性をもたせることができた。

今回の取り組みを通して、団長を中心として、生徒が主体的に団活動に参加し責任感、協調性、コミュニケーション能力など自己を生かす力をはぐくませることができた。

今後は、個人目標カードや団活動計画表などをより多くの生徒や教師が活用できる工夫を行い、一人一人の生徒の体育祭参加への意欲をさらに高める必要がある。

平成15年度( ) 団長( )

1. 体育祭の目標は？ \_\_\_\_\_
2. その目標を達成するためにどのようなことをしましたか？
3. 団長として団員指導で気をつけていた点は？
  - ① 1年に対しては
  - ② 2年に対しては
  - ③ ホームルームに対しては
4. 団長が1, 2年の時のことを思い出して書いて下さい。
  - ① 1年の時に応援練習をしてどう思いましたか。
  - ② 2年の時に1年生の応援練習を指導をして、困ったことや工夫した点を書いて下さい。
  - ③ 1年の時、団長を見てどう思いましたか。
  - ④ 2年の時、団長を見てどう思いましたか。
  - ⑤ 1年の時、体育祭が終了したときどう思いましたか。
  - ⑥ 2年の時、体育祭が終了したときどう思いましたか。
5. 対面式後の応援練習で、気をつけていた点はありましたか。後輩へのアドバイスをお願いします。
6. 団長をやって良かった点は何ですか。
7. 団長をやって良かった点は何ですか。
8. 最後の体育祭を終えての感想を書いてください。
9. アドバイスや反省点など、後輩のために自由に書いて下さい。

図3 団長申し送り表

## まとめ

本年度の特別活動部会では、「主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導の工夫」という研究主題に基づき、「特別活動を通して、個人の目標や役割を明確にし、生徒の活動の場を設けることで、主体的に活動する力がはぐくまれ、集団の一員としての意識が高まり、自己を生かす力がはぐくまれる。」という仮説を設定し、研究を行った。

研究を進めるに当たって、本年度の教育研究員が所属する学校の生徒を対象に、「生徒の意識調査」を実施し、学校生活における生徒の意識の現状を分析して、「主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導」の観点（５ページ参照）としてまとめた。

これらの観点を踏まえながら、以下の５点の特別活動の実践事例に取り組んだ。

### ホームルーム活動

事例１ 校内合唱コンクールを通じた取り組み

### 生徒会活動

事例２ リーダー研修会を通じた生徒会活動の取り組み

### 学校行事

事例３ 状況報告書・企画書を用いて主体的・計画的に文化祭に取り組む工夫

事例４ 文化祭実行委員が中心となって運営する文化祭の活性化

事例５ 団長を中心とした団活動をより活性化させる指導の工夫

事例１では、校内合唱コンクールの準備から実施までの過程で、生徒自ら考え、協力して行動する場を多く設けることで、集団の一員として自己を生かす力をはぐくむことができた。

事例２では、「リーダー研修会資料」「生徒会行事カレンダー」などの作成を通して、生徒会役員としての責任感、学校行事へ積極的に取り組む姿勢やコミュニケーション能力など自己を生かす力をはぐくむことができた。

事例３では、「状況報告書」「企画書」などの工夫をしたことで、主体的・計画的に文化祭に取り組むとともに、生徒同士の協調性やコミュニケーション能力など自己を生かす力をはぐくむことができた。

事例４では、「HR週間評価表」「書き込み式アンケート」などの工夫をしたことで、文化祭実行委員が毎週定例会で活発に発言するとともに、HR企画を中心となって推進し、主体性、責任感、協調性や自己有用感を高めることができた。

事例５では、「個人目標カード」「団活動計画表」を作成したことで、団長のリーダーシップの基に、生徒が主体的に団活動に参加するとともに、責任感、協調性、コミュニケーション能力など自己を生かす力をはぐくむことができた。

今後も、「主体的な集団活動を通して、自己を生かす力をはぐくむ指導」の観点を踏まえながら、各学校で計画的、継続的、組織的な指導していくことが重要である。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 勝田印刷株式会社